

庄内を訪れる回を重ね、世のため人のためと動いた先人の夢に触れるつど、確と頷いている。

## 歴史が醸し出す

## オーラの漂う場所

## 西水美恵子

|| 文

庄内のあちこちに、不思議な雰囲気  
気が漂う所がある。傑出した人物に  
感じるカリスマに似ていて、まるで  
歴史が醸し出す息吹のようだ。ギリ  
シャ語の「アウラー（息）」に由来する  
オーラという言葉が、よく似合う。

そのオーラを意識したのは一昨年  
の春、庄内空港に初めて降り立った  
瞬間だった。迎えの方が「庄内人の  
魂がこもる空港」と、教えてくれた。  
山海に包囲され「陸の孤島」とさえ  
呼ばれた地に住む人々にとって、空  
港は長年の夢。庄内人はその夢を現  
実にと自主的に動いた。ひと昔前  
ブータン王国初訪問の際にも、全く  
同じ体験をしていた。あの国の空港  
も、「ヒマラヤの秘境」に住む民が  
自ら叶えた夢だったと思ひ出して、  
確と頷いた。

庄内を訪れる回を重ね、世のため  
人のためと動いた先人の夢に触れる  
つど、確と頷いている。庄内藩校致  
道館では、清閑な佇まいが醸すオー  
ラに圧倒され、第7代庄内藩主、酒  
井忠徳公に想いを馳せた。自主性を  
重んじよという現代でさえ希有な教

育方針に驚き、それを命じた名君の  
とてつもなく大きな夢を垣間見た気  
がした。

松ヶ岡開墾場のオーラにも、並外  
れた重量感があった。なぜか駆け足  
訪問はいけないと強く思うところが  
あつて、今春ようやく機を得た。そ  
のせいか、それとも早朝の月山麓  
を渡る風のせいか、開墾場を東西に  
ぬける並木道に一步踏み入れて、鳥  
肌が立った。木造瓦葺3階建の大蚕  
室5棟が、葉桜の奥からその凛とし  
た立ち姿を現し、語りかけてきた。  
ゆるゆると大蚕室の間を抜けなが  
ら、開墾の歴史を顧みた。旧藩士が  
険しい原野の開墾に着手したのは、  
明治5年早春のこと。総勢3千人を  
超える大規模な開墾団隊組織とはい  
え、60日を切る工期で323ヘクタ  
ールを竣工したと聞く。それから桑  
園を造成し、蚕室が完成したのは明  
治8年の春。同年夏には、養蚕と蚕  
種の製造出荷に成功した。原野から  
蚕種の輸出までわずか3年少々……。  
その驚異的な速度に改めて気づき、  
旧藩士と家族のご苦労や如何にと、

胸が詰まった。

松ヶ岡開墾場綱領その一、「徳義  
ヲ本トシ産業ヲ興シテ国家ニ報シ以  
テ天下ニ模範ヲラントス」。刀を鋏  
に持ち替えて未来を切り開いた先人  
を想いつつ、松ヶ岡本陣の小高い丘  
を登りきった。眼下に広がるこの地  
を慈しみ育ててきた人々のカリスマ  
が結晶になって、朝日に輝いている  
と思つたら、涙だった。

訪問の最後を一人の若者が飾って  
くれた。蚕室の一角に陣取る食事処  
「待カフェ」で、松岡物産社長、  
酒井忠順氏の夢に聞き入った。御馳  
走になった「絹麦きり」（絹タンパ  
クを小麦に練り込んだオリジナル麺）  
にも、桑の実と絹の「松ヶ岡シルキ  
ードレッシング」にも、先人の偉業  
を受け止め未来へと繋ぐ、斬新希有  
なアイデアが詰まっていた。ふた品  
の美味に舌鼓を打ちながら、致道館  
の息吹を聞いた。忠徳公の大きな夢  
今ここにも捻ると、頷いた。



国指定史跡松ヶ岡開墾場 蚕室。  
(鶴岡市羽黒町松ヶ岡)

にしみず・みえこ 大阪府豊中市生まれ。東北公益文  
科大学大学院客員教授。ソフィアバンク・パートナー。75  
年、ジョンス・ホプキンス大学博士課程卒業。プリンス  
トン大学経済学部助教授を経て、80年、世界銀行入行。  
97年、南アジア地域担当副総裁就任。03年退職以来、世  
界を舞台に様々なアドバイザー活動を続ける。米国首都  
ワシントンと英領バージン諸島在住。著書に『国をつく  
るという仕事』（英治出版）がある。